

(単元) 世界の工業

(本時のねらい)

日本企業は世界各地に進出しているが、とりわけ中国への進出が多い。なぜ中国に進出するのか、その理由を多角的に考察することで地理的な見方や考え方を身につけさせる。また日本の工業課題にも気づかせ、新たな取り組みにも注目させる。

(ICT 活用方法)

日本企業はなぜ中国へ進出するのかを説明するために、どの分野の工業が多いか、工場はどこに立地しているかを、資料を用いて考察させて発表させる。従来では、教科書の写真やグラフを各自が見て説明するが、教科書の資料を電子黒板で投影し、実際にグラフの見方を具体的に説明したり、地図の見方を説明したりすることで、資料活用力を身につけさせる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法	備考
導入 5分	日本の海外進出企業数を調べる。	統計要覧で調べさせ、上位5位まで書かせる。	日本の海外進出企業数を白地図上に書き込み、場所の確認を行う。	
展開 30分	なぜ中国が多いのか、中国に進出する魅力を3つ考える。 中国に進出する工業をAウェーバーの工業立地論で分類する。 中国の工業の停滞(課題)を理解し、日本企業の海外進出について考える。	どんな工業部門での進出が多いかに着目させる。 労働力立地(労働力指向型)であることを確認する。 中国が直面している課題について説明する。日本の貿易摩擦、産業の空洞化について	繊維工業、電気機械工業、自動車工業がどのようなものか理解できるように写真か簡単な動画を見せる。 地図を用いて、日本と中国の位置関係、中国の経済特区の場所を確認する。 一人っ子政策、西部大開発、貿易摩擦、産業の空洞化に関する図・表を掲示して説明する。	

		も説明する。		
まとめ 15分	日本の知識産業への転換について理解する		知識産業に関する写真、グラフを掲示して説明する。	

授業の様子

○ワークシート

日本の工業について、

【1】日本企業は世界各地で活躍している。どの国に進出しているだろうか。
統計要覧（二宮書店）p.137を見て、上位5位まで書こう。

1位（ ）	2位（ ）
3位（ ）	4位（ ）
5位（ ）	

【2】なぜ（ ）への進出が多いのだろうか？
その国に進出する魅力を3点考えて書いてみよう。

【3】（ ）における工業の問題点

【4】日本における工業の問題点と工業の転換について

生徒の反応と課題，改善を要する点

一斉授業の講義形式であるため、生徒の自主的な発言は少なく、ICT を用いたといっても全員の理解度を細かく見るのは難しい。部分的にでも個別学習、協働学習を取り入れながら、生徒に考えを書かせて発表させる、または生徒の文章を電子黒板に投影して説明させ考察できるようにすると、より効果的な ICT 活用につながると考える。

今回は資料集や統計要覧や地図帳など使用している資料の図やグラフを投影し、具体的に示しながら説明することで理解度を上げようと考え、さらに投影することで生徒に思考させる時間を十分にとろうと考えていたが、それほど時間的な余裕は生まれなかったのも課題である。電子黒板の魅力の1つに、動画を簡単に見せることがあると考えるが、教室の両端や後方座席の生徒には多少見にくいとわかり、こちらも課題である。